

第1回多治見市かわまちづくり協議会議事録

(要点筆記)

- 開催日時 令和3年3月3日(水) 午後2時から午後3時18分まで
- 開催場所 多治見市産業文化センター 5階大ホール
- 議 事
1. あいさつ
 2. 委員委嘱
 3. 委員紹介
 4. 委員長及び副委員長の選出
 5. 議題 (1) かわまちづくり支援制度について
(2) スケジュールについて
(3) 社会実験について
 6. 今後の予定
- 会議の公開 多治見市情報公開条例(平成9年条例第22号)第23条の規定により公開
- 出席委員 山本 真行、水野 利之、城下 真由美、加藤 聖規、水野 高明、小
□ 英二、佐藤 円一郎、木本 真義、若尾 茂希、岩塚 慎二、加藤 敬
次、飯田 道広、樫野 誠、日置 龍朗、知原 賢治、長江 信行、小原
光博(オブザーバー) (敬称略)
- 事務局 多治見市建設部道路河川課・経済部産業観光課
国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所調査課

発言者	発言内容
事務局	第1回多治見市かわまちづくり協議会を開催する。 委員長が選出されるまで司会進行を行う。
1. あいさつ	
多治見市長	川は、水害があると危険なものであるが、国土交通省の支援をいただき、土岐川は、概ね安全な川となりつつある。 安全だけでなく、まちのシンボルである土岐川を利用して、皆が楽しめる水辺空間をつくりたい。川に入り、水に親しみ、川には様々な生物が生きているという素晴らしさを子どもたちに伝えられるまちにしたい。この思いが、この協議会の出発点である。 京都の鴨川では、色々な人たちが色々な楽しみ方をしているが、多治見市でも、市内の中心部を流れる土岐川を利用して、もっと素晴らしい空間を作りたいというのが、この協議会を発足させる意義である。 かわまちづくりを進めるためには、住民や産業に関わる人たちの熱意が重要である。このため、この協議会においても、地元の方、産業に関わる方に多く参加していただいた。 記念橋より下流は概ね整備できたが、記念橋上流の右岸は、まだ整備できていない。ビアンカの隣にある^{よりす}寄洲を利用して、もっと素晴らしい空間をつくれなかと検討してきた。 平和町の排水ポンプ、池田町の排水ポンプの能力増強、脇之島川の付替えなどについて国土交通省の支援をいただき、安全、安心な土岐川の完成に近づきつつあるので、次に、土岐川を利用した素晴らしい空間を造りだすため、皆さんの自由かつ達な意見をいただきたい。
庄内川河川事務所長	土岐川には、歴史、文化など様々な資源がある。それらの資源を生かしていくことについて、河川管理者として支援したい。 かわまちづくりは、川や水辺空間とまちを融合させ、一体的に活性化し、魅力を引き出すものである。 かわまちづくりは、様々な地域で取り組まれているが、他の地域をまねる必要はない。ここにしかない資源を生かして、この地域として何ができるかを考えていくためには、行政だけでは限界がある。委員の皆さんから意見をいただき、にぎわいのある空間を創り出していきたい。そのために、河川管理者として支援して

	いきたい。
2. 委員委嘱	
事務局	本来なら、市長から委員 1 人 1 人に委嘱状を渡すところであるが、ソーシャルディスタンスを確保するため、委嘱状は、机上に配布した。
3. 委員紹介	
事務局	委員の紹介は、名簿の配布により代える。 事務局は、多治見市役所建設部道路河川課、経済部産業観光課と国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所調査課が担当する。
4. 委員長及び副委員長の選出	
事務局	委員長と副委員長は、多治見市かわまちづくり協議会設置要綱第 5 条の規定により、委員のうちから選出することとなっているが、事務局案を提案してもよいか。 (拍手をもって賛成) 委員長は**委員に、副委員長は**委員にお願いしたいが、いかがか。 (拍手をもって賛成)
委員長	生まれてからずっと土岐川のそばで育ち、仕事をしてきた。50年前には、土岐川で遊ぶのは普通のことであったが、いつのまにか川で遊ぶことは危険であるとされ、子どもたちが川で遊ぶ姿を見ることがなくなった。 本来、川は、皆が集う楽しい場所であるが、いつのまにか公の管理する場所になってしまった。 一方、規制が緩和され、もう一度川を住民に開放しようという運動が各地で展開されている。 土岐川が市民の楽しい憩いの場となるよう、委員の皆さんの知恵を借りたい。
副委員長	小学生の頃から川に入り続け、土岐川をはじめ、市内の川に誰よりも入っていると自負している。 今回のかわまちづくりで整備する区域は、土岐川の中で最も地名が多いところである。100年以上前から色々な名前が付けられた歴史ある場所であり、そのことを市民に伝えたい。
5. 議題(1) かわまちづくり支援制度について	
事務局	(かわまちづくり支援制度について事務局から説明)

委員	記念橋から土岐川をたどって、直接寄洲まで行く散策路を整備できないか。
事務局	今回は、寄洲の多目的空間を利用して様々な社会実験を行うことが第一歩なので、市道を散策路としているが、将来的には、土岐川の護岸を利用し、川下からの連続性を保ちたい。
多治見市長	この計画の成功には、地元住民の協力が不可欠である。 当面の終点は、寄洲の多目的空間であるが、できればそこまで土岐川沿いを歩けるようにつなげたい。将来的には、上流部まで歩けるようにしたい。 かつては、地元住民が整備した遊歩道が、寄洲から永保寺まで続いていた。夢は大きく、最終的には虎溪山永保寺までつなげたい。
委員	10年程前から、寄洲の林のようにになっていた所を切り開いてきたが、昔の遊歩道の跡が残っている。 記念橋から土岐川沿いを歩けるようにつなげられれば非常にきれいである。 多目的空間が整備され、隣接の施設を利用している高齢者が利用できる空間になるとよい。さらに、高齢者が市民とふれあえる場になればよい。
委員	水が近くにあり、広い空間ができると、青年会議所の活動がしやすくなる。
委員	子どもたちが水辺で楽しめる場所ができれば、漁業協同組合としても色々なことを考えたい。
委員	レンタサイクル事業で色々なツアーを企画して、実施しているが、その中に、遊歩道を走り、橋の下をくぐるコースがいくつかある。自転車で走ってきて、その先で遊べる場所ができれば、その利用を考えていきたい。
委員	うながっぱをうまく使いたい。 この場所は、川の湾曲部であり、生田川との合流地点でもあるので、土砂が堆積しないか心配である。
事務局	下流部の流量が増えるため、この箇所の掘削はできないが、工夫をして、できるだけ川に負担をかけないようにするための案を提示した。 この場所で水害が発生する可能性は大きくないが、土砂が堆積することはあり得るので、維持掘削で対応したい。

	(市長及び庄内川河川事務所長は、他の公務のため退席)
委員	休日や夏休みに、川遊びに来る人たちを見かける。 多目的空間でバーベキューをしたり、イベントを開催したりできれば、まちのにぎわいにもつながる。
委員	以前土岐川で開催されていたマルシェに参加してよかったという声を聞いた。多目的空間でイベントなどが行われれば、事業者の機会も増える。
委員	いかだを作って川下りをしたり、昭和橋と多治見橋の間に皿を浮かべてアートを作ったり、川面にステージを組んでバンド演奏をやったり、色々なイベントを行ったことがある。 以前は精霊流しを行い風情があったが、環境配慮のため今では行うことが難しいが、多目的空間ができれば、やり方を工夫できる。 目に見える拠点ができると、色々なことを考える人が増え、アイデアを実現しやすくなる。
委員	2014年6月から昭和橋近くの土岐川河川敷などで、たじみサンデーマーケットを行った。一級河川での民間主催のミズベリング事業としては、全国初の事業であった。その後、虎渓用水広場に場所を移し、2018年をもって、一旦月1回での開催は終了した。今年の4月4日には、豊岡駐車場の屋上で開催する。 今までの経験やノウハウを役に立てられればと思う。
5. 議題(2) スケジュールについて	
事務局	(スケジュールについて事務局から説明)
委員長	登録申請について説明を求める。
事務局	かわまちづくり支援制度を利用するためには、かわまちづくり計画を作成のうえ登録申請し、国土交通省で登録しなければならない。
委員	社会実験では、何を行うか。
事務局	かわまちづくり計画を作成する際に、この協議会で色々なアイデアを出していただき、この場所で何ができるか試しにやってみるものである。
委員	委員が現場を歩いてみるとよい。
5. 議題(3) 社会実験について	
事務局	(社会実験について事務局から説明)
委員長	実現可能性の有無にかかわらず、色々なアイデアを出してほしい。

	い。
委員	バーベキューや川を使ったアトラクションなどをやってみると、新たなアイデアも出てくるのではないかな。
副委員長	土岐川観察館では、多治見橋の辺りで釣り教室、釣り大会をやっているが、5センチメートル程度の魚が釣れる。記念橋上流部は、コイ、ナマズ、ウナギなどの大型魚が生息している場所なので、釣り教室、釣り大会をやってみたい。子どもたちに大きい魚を釣らせてあげたい。キャンプができるなら、夜釣り体験もさせてあげたい。 また、この場所は、川の流速が緩やかなので、ライフジャケットを着て、記念橋まで流れるということも面白そうである。 昨年、多治見高校から河川指導育成講習の実施場所として、水深が深い場所はないかとの相談を受けた。生田川との合流部が適当であったが、川までの動線がないため断念したが、動線ができれば、講習の場所として活用できる。
委員	計画が実現すれば、色々なことができると思うので、ゼロベースで考えていけばよい。
委員長	いかだの川下りなどのイベントについて、詳しく話してもらいたい。
委員	チームごとにペットボトルでいかだを作り、デザインなどを競い合った。 また、川面に舞台を設置してジャズの演奏を行った。多治見の夏は暑いけど、舞台の上にいると、とても涼しかった。 多目的広場が、それぞれの分野が得意な人たちが集える拠点になるとよい。 常設の施設を設置することは可能か。
事務局	常設の施設を設置することは難しい。仮設のもので、水位が上昇するおそれがあれば、すぐに撤去できるようなものであれば設置できる。
委員	花火をやろうと思っても、広い庭がなかったり、煙が迷惑になったりで、なかなかできないが、水辺の広い場所であれば、楽しめる。 川を区切って、天然のプールにして、子どもたちが遊ぶ姿を見たい。 釣りは、是非やるとよい。

委員	自分は音楽をやっているが、最近はイベントも少なく、発表の場を求めている人は多い。ここで音楽などのイベントができれば、にぎわいにつながる。 子どもが参加できるイベントがあるとよい。自分の子が学校でライフジャケットを付けて川を流れる体験をした時に、すごく楽しかったと言っていたので、同じようなことができるとよい。
委員	土岐川にアユを放流しているが、なかなか釣りができないのが現実である。子どもたちが気軽に釣りを体験できるように協力したい。
委員	夜になると、この場所は真っ暗なので、夜でも明るい環境を整備した方がよい。 最近はマラソン人口が増えてきたので、川沿いを夜でもジョギングできるとよい。
委員	定期的に寄洲のごみ拾いをやっているが、空き缶やタイヤなど色々なごみが砂に埋まっている。大雨の後には特に多いので、その点が心配である。 東海豪雨の時には、資料１の10ページのイメージ図にある駐車場際まで水が来たので、やはり常設の施設を設置するのは難しい。 生田川との合流部の石の上から川に飛び込む高校生や、犬の散歩をしている人を見かけたこともあるし、多治見石という石を探しているという人に会ったこともある。 寄洲から川に入っていける場所でもあるし、川をのぞき込むと60～70センチメートル位のコイを見かけることもあるので、釣りには良い場所である。
委員長	他にも何かアイデアを思いついたら、後日事務局に伝えてほしい。
6. 今後の予定	
事務局	(今後の予定について事務局から説明)
委員長	第１回多治見市かわまちづくり協議会を終了する。